

祖父から学ぶこと



優秀賞

(7年)

僕の祖父は、僕が3歳のときに肺がんで亡くなりました。僕がまだ幼かったため、僕には祖父との思い出がほとんどありません。自分が大きくなるにつれて、祖父がしてくれた家族の役割を考えるようになりました。

僕の中で残っている祖父との思い出は2つあります。1つ目の思い出は、僕が深夜にゆりかごで泣いていたなら、祖父が来て、泣きやむまで抱っこしてくれた温かい思い出です。2つ目の思い出は、祖父が肺がんで入院していて、お花と果物を持って、お見舞いに行ったことです。

祖父が亡くなった後、祖母から祖父のことを聞きました。母が仕事で忙しかったため、深夜に僕が泣いたときは、肺がんで苦しいときなのに、祖父が起きて僕を抱っこしてくれたそうです。治療がしんどい中、祖母が声をかけると、「孫の運動会を見に行きたいけん、しんどいとかそんなこと言うとなんや。」と言っていたそうです。もっともっと幼稚園の運動会や行事のときに見て欲しかったです。

肺がんが全身に転移して両方の足が自由に動けなかったときも、家族のために田んぼなどをしてくれていたそうです。手術をしてどんなに治療が辛くても、弱音を吐いたことはなかったそうです。祖父は最期まで家族の役割を全うしてくれました。そして、自分のことよりも家族を一番に考えてくれました。

僕は祖父と、もっと一緒に過ごしたかったです。祖父と話して、もっといろんなことを知りたかったし、僕の学校の話もたくさん聞いて欲しかったです。

今は、祖母が一人で祖父の思いを受け継ぎ、祖父が大切にしていた家族や、田んぼを頑張ってくれています。祖母一人で、祖父の代わりに守ってくれています。家族のために栄養たっぷりのご飯も作ってくれます。僕は、祖父から引き継いだ田んぼで作ったお米や、野菜が大好きです。

家族でよく祖父の話をしてします。病気になって辛かったことだけではなく、「あのとき、あんなこと言ってたね。」

と笑いながら思い出話をするときもあります。その時間は、祖父が近くにいるような感じがして、すごく好きな時間です。

僕は自分が限界だと思ったときに、祖父のことを考えます。これで諦めていいのかと、思いとどまることもあります。でも、まだ自分が弱く、自分に負けてしまい、祖父のようになるのは難しいです。

祖父は僕のことを一生懸命に大切にしてくれました。祖父が僕のために命をかけてくれ、また祖父が亡くなった後は、祖母が祖父の分も家族を守ってくれています。

祖母は、ときどきお仏壇に向かって座り、さみしそうな顔をしています。僕が祖母に声をかけると

「まだまだ話したいことや、聞きたいことがたくさんあったんや。」

と言っていました。

だから僕は、家族が大事にしてくれた命を大切に、今度は僕が家族を支えていけるようになりたいです。